

偏見を越えた先に

中沢中学校3年 城田 愛莉

多くの人が平和と考えると武力、戦争のない社会を想像しますが、私が考える平和はそれだけではありません。それは心の中に偏見がなく、誰もが互いを尊重して生きることができる社会だと思います。人は知らないことや自分と違うものを前にすると無意識に怖い、危ないと決めつけてしまうことがあります。その小さな偏見が積み重なることで差別や対立を生み、いつしか大きな争いへと繋がってしまうのではないのでしょうか。

私にはロシア人の友達があります。その子とは共通の趣味を通してインターネットで知り合いました。最初は正直なところ少し距離を置いていました。それはニュースで毎日のように流れるロシアとウクライナの戦争の映像を日頃から観て「ロシア人って怖いんじゃないか。」「何かあぶないことを考えているのではないか。」と心のどこかで偏見を持っていたからです。でも実際に話してみると、彼女は私と同じ普通の中学生でした。私たちは好きなアイドルの話で盛り上がり、お互いの国について教え合い、いつしか毎日彼女と話すことが習慣となっていました。

そんな彼女と話した中で私が特に印象に残っていることは、彼女にはウクライナ人の友達がいるということでした。彼女は寂しそうにこう言いました。「戦争が始まってから周りの大人たちの中には『ウクライナ人は悪だ。』と私たちに洗脳しようとした人もいたの。でも、私は彼女のことを友達だと思ってるし、悪じゃない。そもそもこういう争いって少し自分たちと違うだけで、メディアの情報をうのみにして本当に偏見って怖いよね。」その言葉を聞いた瞬間、私は胸が熱くなり言葉がでませんでした。そんなことはいくらニュースをみても分からないことでした。私はいつもメディアで得ることが出来る情報が全て正しいと思い込み、無意識のうちに偏見をしていたのです。そして国籍やニュースだけで人を判断するのはなんて浅はかだったのだろうと思いました。

この経験を通して「偏見」というものがいかに簡単に人を傷つけ、分断を生むのか学びました。人は知らないものに対して恐れを抱き、簡単に見えない線を引いてしまいます。「〇〇人だから」「あの国だから」と一括りにする思考は、相手の本当の姿を見えなくさせます。実際に歴史を学んでいると、過去の戦争や対立もこうした偏見や互いの不理解が重なり起きたものが多いと感じます。

では私たちに何ができるのでしょうか。まずは知る努力をすることだと私は感じます。異なる文化や背景を持つ人と実際に交流し、相手の考えや感情に耳を傾ける。インターネットやSNSでは情報が溢れているが、それらをうのみにせず、自分の目と心で確かめることが大切です。

だけれどこの瞬間にも、世界のどこかで戦争や紛争は続いています。しかし平和は遠い未来の話ではなく、今日の私たちの行動で築かれていくものだと思います。例えば誰かを「～人だから」とからかうのをやめること。外国から来た人を温かく迎えること。誰かとニュースを見ながら「相手の立場ならどう感じるだろう」と想像すること。本当に小さなことでいいんです。その小さな積み重ねが、偏見のない社会への第一歩となるのです。

戦争のない世界と、偏見のない心。この二つが揃ってこそ、本当の平和が実現すると信じています。遠い国で続く戦争は、実は私たちの日常の心のあり方と深くつながっています。互いの違いを認め合い、偏見や決めつけをなくしていく努力を、一人ひとりが続けていくことで、真の平和が築かれていくのだと考えます。